

1. 評価報告概要表

作成日平成 21年 5月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	1070200918
法人名	有限会社 ふるさと
事業所名	有限会社 ふるさと
所在地	安中市鷺宮1956-1 (電話) 027-384-0367

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年3月26日

【情報提供票より】(平成21年 3月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	4人 非常勤 3人 常勤換算 4.5人

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	日額 800 円	その他の経費(月額)	光熱水費 300円/日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	又は 1日1200円		

(4)利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	7 名	男性	5 名	女性	2 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.5 歳	最低	69 歳	最高	89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	アミヤ医院 ・ 今井歯科 ・ みやぐち医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、安中市の南西部の静かな農村地帯にある。平成12年の開設当初から重度の人や身寄りのない人を積極的に受け入れ、代表者は家族に対し「最後まで介護します」と説明し、入居者の数名が事業所でターミナルケアを受けている。入居者の受診や入院の付き添いは家族の希望により職員が行い、入院中の洗濯等も行っている。また、経験年数に応じた外部研修の受講や内部研修では外部から講師を招き「老人介護の基礎研修」を年4回開催したり、連絡協議会西部支部が主催する研修会等にも出席し職員の資質向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価について、職員と具体的な話し合いをしていない。自己評価及び外部評価の結果を、職員会議や運営推進会議に報告し、評価を活かした改善に取り組まれるよう期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員に聞きながら管理者がまとめている。職員から、休憩室や家族の面会室の設置要望が出されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地区の民生委員、10名程の住民、入居者の家族等が出席し、開催している。市の担当職員から運営推進会議の設置の趣旨や目的を改めて話して頂き、今後は設置の趣旨や目的に沿って定期的に開催していくこととしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用料を持参した際や面会時に日常生活状況等を報告し、面会時には何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努め、家族からの苦情を取り入れた運営を行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会へ加入を申し込み中であり、地域行事の案内や市の広報誌が配布され、節分には神社の豆撒きに参加している。入居者が近隣の人と知り合いお茶を飲みに行ったり、近隣の人が野菜を届けてくれお茶を飲んで行く等地元の人々との交流に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人が運営する他のグループホーム等の共通理念である「自立に向かって在宅での生活が出来るように援助する」を目標に掲げている。	○	理念は事業所が目指すサービスのあり方を示したものであり、地域密着型サービスの目的や役割を代表者・管理者及び職員で話し合い、法人の理念とは別に、事業所の理念を作成されるよう期待する。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員会議で読み上げ、全員が確認している。日々の生活の中で個々の入居者が持っている力を活かせるように食事は自力ですて頂くなど、理念の実践に向けて自立した生活が送れるように支援している。		
2. 地域との支えあい					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の加入を申し込み中である。地域行事の案内や市の広報誌が配布され、節分には神社の豆撒きに参加している。入居者が近隣の人と知り合いお茶を飲みに行ったり、近隣の人が野菜を届けてお茶を飲んでいく等地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員に聞きながら管理者がまとめている。職員から休憩室や家族用の面会室の設置要望が出されている。前回の外部評価について、職員と具体的な話し合いが出来ていない。	○	自己評価及び外部評価の結果を職員会議や運営推進会議に報告すると共に、評価を活かした改善計画シートを作成し具体的な改善に取り組まれることを期待する。
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市が設置している温泉施設「恵みの湯」を会場に、会議と懇親会を開催している。地区の民生委員、入居者の家族、近隣の住民(10人ほど)、役職員が参加している。今回、あらためて市の職員から運営推進会議設置の趣旨や目的等を話して頂き、今後は設置の趣旨や目的に沿って定期的に開催していくこととしている。	○	運営推進会議の設置や趣旨、目的に沿って定期的に開催し、会議での意見や要望等を反映した運営に取り組まれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月市が開催する「サービス担当者会議」に出席し、生活保護受給者の入居や入院している人の受け入れの要請などについて相談を受けたり、市担当者がホームを訪問し意見交換等を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料を持参した際や面会時に日常生活状況等を報告し、体調に変化があった時はその都度電話連絡している。運営推進会議や懇親会に家族の出席もあるので、その際に時間をかけて入居者の思いや意向を伝えるなどしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会時等に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努め、家族からの苦情を取り入れた運営を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	5年間、正規職員の退職者はいない。異動は過去1名いたが、異動や離職を最小限に抑える努力をし、入居者との馴染みの関係を大切にされた運営に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた外部研修を受講し、報告書を作成の上、職員会議で発表している。内部研修では外部から講師を招き「老人介護の基礎研修」等を年4回開催すると共に、ヘルパー資格や介護支援専門員の資格取得を奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催し毎月開催される「サービス担当者会議」で同業者と意見交換や交換研修を行ったり、地域密着型サービス連絡協議会に加入し西部支部の主催する事例発表研修会や職員相互派遣研修に参加する等サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の本人や家族にホーム見学をして頂き、入居者とお茶を飲み雰囲気を体験してもらっている。その際には、生活歴や習慣など詳細に聞いている。さらに希望者には短期入居の支援も行い、納得した上でサービスが利用できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食べる物も少なかった昔話や家族の大切さを学んだり、入居者から「大丈夫かい?」「ありがとう」の言葉に励まされたり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を把握するために、会話を多くしている。入居者をよく知るために生活歴や家族歴などを大切にして、これまでの生活や家族の希望に沿えるようにしている。意思表示が困難な入居者には、一緒にいることで様子で把握したり察するように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族も参加するサービス担当者会議で家族の意見を聞き、毎月開催する職員会議で職員の意見を取り入れ、介護計画を作成している。家族に説明した後、署名を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス担当者会議や職員会議で3ヶ月毎に見直しを行っているが、見直し以前に体調変化等が生じた場合の計画の修正や新たな計画の作成ができていない。	○	状況の変化に応じて現状に即した介護計画の作成を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や入院時の付き添いは家族の希望により職員が行い、入院中の洗濯等も行っている。希望する家族には、法人が経営する宅老所への住み替えも支援している。また、短期利用の指定を受けるなど柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重したかかりつけ医に職員が付き添っている。ホーム協力医は必要の都度往診し、夜間や休日の受診は携帯電話で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、代表者は家族の不安解消のため、最後まで介護しますと説明し、重度化や終末期においては医師や家族・職員と繰り返し話し合い、全員で方針を共有して対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	従前の面会簿を廃止し、プライバシー確保のため他の家族等に分からないようにカード式に変更している。職員同士で話す時には氏名を出さない、記録に氏名が必要な時はイニシャルで記載するなど取り決めをしている。また、トイレ誘導の言葉かけは他の入居者に聞こえないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ラーメンを食べに外出に行ったり、自宅に時折帰る等希望に沿った支援をしている。また、食事をゆっくり摂ったり、好きな日や好きな時に入浴したり、急な散歩に付き合うなど入居者個々の希望に沿った支援に心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを取り入れた献立を作り、重度の入居者や麻痺のある入居者も自力で食事が取れるよう支援している。歩行できる入居者は下膳を手伝うなど一人ひとりの好みや力を活かしている。介護度の高い入居者には医師の指示により流動食を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	扉一枚開けるとでデイサービスセンターでありデイサービスセンターの浴室を利用して、原則週2日であるが本人が希望した場合や失禁等により汚れてしまった場合には入浴支援を行っている。入浴を嫌がる入居者には、「あったかいよー」と声をかけたり、入浴剤の使用や歌を歌うなど入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできること、出来ないことを判断し、洗濯物干しやたたみ、日めくりカレンダーめくり、朝刊の新聞を取りに行く、下膳等の役割を担ってもらっている。楽しみごとや気晴らしでは、カラオケで懐メロを歌ったり、塗り絵、カレンダー作り等一人ひとりにあわせた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出することを控えてほしいと家族から要望のある入居者は除き、本人の希望に沿った散歩や外気浴を支援している。また、歩ける入居者は花火大会や夏祭り等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員とも話し合いを行っているが、帰宅願望や道路が近いこともあり、入居者の安全を確保するため玄関は施錠している。居室の窓の鍵も施錠している。	○	代表者や職員は鍵をかけることの弊害をさらに話し合い、入居者の安全を確保しつつ、鍵をかけないケアについて工夫されるよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルがあり、緊急連絡網が整備されている。年2回の避難訓練、うち1回は夜間を想定し実施している。	○	地域の人々の協力が得られるような働きかけを行い、近隣住民の参加と共に、消防署の指導を受けながら避難訓練を実施されるように期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌に、食事摂取状況を記録している。水分は記録していないが、1日5回1200～1500mlを確保できるように、ほうじ茶、コーヒー、昆布茶など一人ひとりの希望に沿うように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂には手製の日めくりカレンダーがかけられ、ソファーには竹で作ったリハビリ用の座布団代わりの敷物が置かれるなど工夫されている。壁には入居者が作成した貼り絵がかけられている。トイレや台所は清潔に保たれる等入居者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、衣類収納箱、テレビやラジオが持ち込まれていたり、カーペットが敷かれていたり、入居者の心身の状況により家族と相談しながら何も置かないようにしていたり、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。		